

平成 30 年度

全国学力・学習状況調査結果

平成 30 年 12 月
大紀町教育委員会

目 次

平成30年度全国学力・学習状況調査の結果・分析と今後の 取組みについて	1
1 教科に関する調査の分析結果	
(1) 本町における特徴的な傾向	3
2 質問紙（児童生徒・学校）に関する調査の分析結果	
(1) 学力とのクロス分析	16
(2) 経年変化	18
3 本町における小中学校別調査の分析結果と今後の取組み	21
4 町教育委員会及び学校による取組み	23
5 保護者の皆様へのお願い	23
6 地域の皆様へのお願い	24

平成 30 年度全国学力・学習状況調査の結果・分析と今後の取組みについて

平成 30 年 12 月

大紀町教育委員会

本年 4 月 17 日に小学校第 6 学年及び中学校第 3 学年を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」の結果が、7 月に文部科学省から公表されました。

結果の概要について、本町の児童生徒の学力の定着状況、学習状況、生活習慣等の分析結果や今後の取組を以下のとおりまとめました。

なお、「全国学力・学習状況調査」は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる目的で実施されています。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立することが目的とされています。しかしながら、調査により測定できるのは学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面です。このことを十分考慮しつつ、今後の本町の教育の一層の充実を図ってまいります。

なお、この調査の平均正答率等（町・学校別）の数値については、「国の要領に基づいて実施していること」「過度な競争や序列化につながる恐れがあること」「数字が一人歩きし、本来の目的が失われる恐れがあること」等から公表はしておりません。但し、生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査については、数値を公表いたしております。

参加校（小学校 4 校：46 名、中学校 2 校：56 名）

1 分析方法

（１）教科に関する調査

- ・「設問別調査結果」及び「設問別（解答類型）調査結果」をもとに分析
- ・本町の児童生徒に顕著にみられる特徴を強み・弱みとして選択
- ・本町の児童生徒の無解答率の高い設問を選択

＜強み＞平均正答率 80 ポイント以上かつ全国及び県の平均正答率より高い

＜弱み＞平均正答率 45 ポイント未満または、無解答率 10 ポイント以上

※強み・弱みについては、上記基準を原則とし、各教科（Ａ・Ｂ）の正答率の状況により、その基準値を変動した。

（２）児童生徒質問紙調査及び学校質問紙調査

- ・昨今の学校教育を取り巻く環境・状況に関して注目すべきテーマに関する項目のうち、学力と一定の関係が見られるものについて選択

＜学力とのクロス分析＞学力との相関関係

因果関係を示したものではないことや、質問紙調査の回答が特定の選択肢に偏っている項目の場合は正答率等との相関関係が表れにくいこともあることなどに留意する必要がある。

＜経 年 変 化＞ 同一項目に関して過去5年間（平成26年度以降）の変化

2 本町の特徴

（1）教科に関する調査

①小学校について

- ・算数Bを除き、平均正答率が全国平均を上回っており、前年度（平成29年度）の落ち込みを回復させている。全国平均を下回った算数Bにおいても、全国平均との差は前年度より縮まっている。
- ・国語A、算数Aとも平均無解答率が全国平均を下回っており、最後まで解答しようと努力したことがうかがえる。

②中学校について

- ・国語B、数学Aでは、平均正答率が全国平均を上回っており、経年的に見ても、ゆるやかに改善していることがうかがえる。しかし、国語A、数学Bでは、全国平均との差は前年度より開いている。

③平成27年度と平成30年度（同一児童生徒）の経年比較について

- ・平均正答率は、算数・数学Aにおいて改善している。
- ・無解答率は、理科において改善している。

（2）質問紙（児童生徒・学校）に関する調査

- ・「授業で、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」と回答している児童生徒の方が、教科の平均正答率が高い傾向が見られる。
- ・小学校では算数の指導として補充的な学習を、中学校では数学の学習において少人数による指導を全ての学校で行っている。これに伴い、「算数・数学の授業の内容はよく分かる」と回答している児童生徒の割合は増加傾向にある。
- ・小学校、中学校ともに、相互に授業研究を行なうなど合同で研修する学校の割合は増加傾向にある。全国学力・学習状況調査の成果や課題について共有したりしていると回答している学校の割合は依然低い傾向にある。
- ・全ての小中学校において、家庭学習について校内で共通理解を図り、具体的な指導を行っている。これに伴い、「自分で計画を立てて勉強をしている」と回答している児童生徒の割合は増加傾向にある。しかし、平日の家庭学習時間が「30分未満である」と回答している児童生徒もいる。

1 教科に関する調査の分析結果

(1) 本町における特徴的な傾向

〈小学校国語〉

■調査問題結果からみる傾向（○強み ●弱み）

○問題A[1] : 平均正答率 91.3%（三重県 90.5%、全国 90.8%）

○問題B[1] 一 : 平均正答率 91.3%（三重県 81.1%、全国 82.5%）

相手や目的、場面、状況などに応じて適切に話すことや、互いの立場や意図を明確にしながら、計画的に話し合うことについては、相当数の児童ができています。

○問題A[6] : 平均正答率 93.5%（三重県 89.6%、全国 90.4%）

慣用句（心を打たれる）の意味と使い方として適切なものを選択することについては、相当数の児童ができています。

○問題B[2] 三 : 平均正答率 82.6%（三重県 70.3%、全国 70.8%）

推薦理由を明確に表現するための工夫として適切なものを選択することについては、相当数の児童ができています。

●問題A[5] : 平均正答率 30.4%（三重県 33.5%、全国 35.5%）

主語と述語との関係などに注意して、文を正しく書くことに課題があります。

（参考）関連する問題：H27A[2]一

H27A[2]一の正答率は、53.4%（全国）、54.8%（大紀町）であり、「文の中における主語を捉えること」に課題があると指摘しています。

●問題B[1] 三 : 平均正答率 30.4%（三重県 32.7%、全国 33.8%）

話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめることに課題があります。

本設問は、【話し合いの様子の一部】において、提案者の意見を取り上げ、自分の考えをまとめて書くものです。正答するためには、全ての条件を満たして書く必要があります。誤答である解答類型3の反応率は、19.6%でした。これは、提案者の意見を取り上げ、それに対して自分はどうか考えるのかについては書いていますが、これから自分はどのように言葉を使っていきたいかについては書くことができていないものです。また、解答類型8の反応率は、17.4%でした。これは、提案者の意見を取り上げ、それに対して自分はどうか考えるのかについて書くことができていないものです。

●問題B 2 二：平均正答率 17.4%（三重県 13.8%、全国 13.5%）

複数の資料から適切な内容を取り上げて、それらを関連付けて理解したり、表現したりすることに課題があります。

本設問は、「かみかみあえ」を推薦する理由として、【紹介する文章】と【保健室の先生の話から分かったこと】から適切な内容を取り上げて、相手に伝わるように詳しく書くものです。正答するためには、全ての条件を満たして書く必要があります。誤答である解答類型4の反応率は、37.0%でした。これは、【おすすめする文章】にふさわしい言葉を用いて書いていますが、必要な内容のうち「だ液がたくさん出て、口の中をきれいに保つこと」を取り上げて書くことができていないものです。また、解答類型99の反応率は、23.9%でした。これは、他の解答類型以外の解答であり、どの条件も満たしていないものです。

ただし、弱みとしましたが、平均正答率は、県平均より3.6%、全国平均より3.9%上回っています。

■ 全体の傾向から見られる課題への対応

① 主語と述語を適切に照応させて、文を正しく書く指導の充実

○文や文章を書く際には、主語と述語との関係に注意するなど、正しく書くことの大切さに気付くことができるようにすることが重要です。書いた文章を推敲する学習を繰り返し、書き直したものが読みやすくなり、相手に伝わったということを見えが実感できるように指導することが大切です。また、文を書くに当たって、主語と述語との関係だけではなく、修飾と非修飾との関係や、「だれが」、「いつ」、「どこで」、「なにを」、「どのように」、「なぜ」など、文の構成について理解することができるよう指導することも大切です。

② 相手と自分の意見とを比べて、自分の考えをまとめる指導の充実

○自分の考えをまとめる際には、相手の意見と自分の意見との共通点や相違点を整理することなどが大切です。相手の意見を聞いて考えたことや、共感したり納得したりした内容や事例を取り上げるなどして、自分の考えを筋道立ててまとめることができるように指導を工夫することが必要です。

具体的には、自分の考えをもって話し合いに臨むことができるようにすること、何を書き留めるか、どのように書き留めるかを考えてメモを取ること、それを基に自分の考えを簡潔にまとめることなどの指導をすることが考えられます。

③ 目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書く指導の充実

○推薦文では、推薦したい事物のよさを相手に伝えるために、推薦理由を明確にして書くなどの特徴があります。推薦理由を明確に伝えるためには、事例を挙げて

具体的に説明することが有効です。事例を挙げて書く際には、自分の考えを具体化したり、相手の理解を促したりすることができるかどうかを判断すること、必要な資料を集め、得た情報を適切に関係付けて書くことが大切です。また、分かりやすい文章を書くために、相手に伝わるかどうかという観点で、再度検討したり、友だちと相互に吟味し合ったりするなどの活動を取り入れることも大切です。

＜小学校算数＞

■調査問題結果からみる傾向（○強み ●弱み）

○問題A[3]：平均正答率 80.4%（三重県 76.1%、全国 76.4%）

十進位取り記数法で表された数の大小については、相当数の児童が理解できています。

○問題A[4]（1）：平均正答率 89.1%（三重県 86.4%、全国 87.8%）

異種の二つの量のうち、一方の量がそろっているときの混み具合の比べ方については、相当数の児童が理解できています。

○問題A[5]（1）：平均正答率 100%（三重県 94.8%、全国 94.4%）

180°の角の大きさについては、相当数の児童が理解できています。

●問題A[2]：平均正答率 37.0%（三重県 36.9%、全国 39.9%）

小数の除法の意味について理解することに課題があります。

誤答である解答類型8の反応率が19.6%でした。これは除数が1より小さい小数である場合でも除法を用いることは理解しているものの、比較量を求めるときも除法であると捉えているものです。また、解答類型99の反応率は19.6%でした。これは解答類型8と同じく除数が1より小さい小数である場合でも除法を用いることは理解しているものの、基準量と比較量を正しく捉えることができていないものです。

●問題B[2]（2）：平均正答率 39.1%（三重県 47.0%、全国 47.9%）

示された考え方を解釈し、それぞれの数値の場合に適用して、その結果を表に整理することで、条件に合う時間を判断することに課題があります。

本設問は、日常生活の問題の解決のために、情報を収集し、それを表に整理し、複数の場合に適用して、条件に合う事柄について適切に判断するものです。誤答である解答類型6の反応率が10.9%でした。これは【入った玉を数える時間】については正しく記述できていますが、【1回の玉入れゲームの時間】については、50秒、60秒の場合のどちらか一方を正しく記述できておらず、【玉を投げる時間】についても50秒にすればよいと判断できなかったものです。

- 問題B③(1)：平均正答率 21.7% (三重県 18.1%、全国 20.7%)
無解答率 23.9% (三重県 19.8%、全国 18.0%)

メモの情報と棒グラフを組み合わせたグラフを関連付け、総数や変化に着目していることを解釈し、それを言葉や数を用いて記述することに課題があります。

誤答である解答類型4の反応率が13.0%でした。これは【メモ1】が12月の人数に着目して書かれていることは記述できていますが、【メモ2】が7月の人数と12月の人数の差に着目して書かれていることは記述できていないものです。また解答類型99の反応率は34.8%でした。これは、それぞれのメモに示されている数値が、グラフのどの部分に着目したものなのかを捉えて記述できていないと考えられるものです。無解答率が23.9%と高いことにも注目する必要があります。

- 問題B③(2)：平均正答率 17.4% (三重県 21.1%、全国 23.9%)

一つの事柄について表した棒グラフと帯グラフから読み取ることができることを、適切に判断することに課題があります。

誤答である解答類型5の反応率が54.3%でした。これは、二つのグラフではなく、帯グラフのみで判断していると考えられるものです。

■全体の傾向から見られる課題への対応

① 数量の関係を的確に捉え、立式する指導の充実

○図や数直線などを用いて、数量の関係を的確に捉え、立式することができるようにすることが大切です。乗法の問題場面と除法の問題場面をそれぞれ表した、テープ図と数直線を組み合わせた図を比較することができるようにし、割合に当たる大きさを求める場合には乗法が用いられ、1にあたる大きさを求める場合には除法が用いられることを理解できるようにする学習活動を取り入れることが大切です。

② 日常生活の問題の解決のために、情報を収集し、それらを表に整理して、条件に合う事柄について適切に判断する指導の充実

○日常生活の問題の解決のために、試行錯誤するなどして情報を収集し、それらを表に整理して、条件に合う事柄について適切に判断することができるように指導することが大切です。

③ グラフの特徴を複数の観点で捉えて、情報を読み取る指導の充実

○グラフの特徴を複数の観点で捉えて、情報を読み取ることができるようにするために、他者が読み取った情報や観点をグラフと関連付けて解釈することができるように指導することが大切です。

④ 目的に応じてグラフを作り、複数のグラフを関連付けて考察する指導の充実

○あるグラフから読み取った情報が適切かどうかを検討したり、考察した結果から見いだした新たな問題を解決したりするために、グラフを新たに作り、それぞれのグラフから読み取ることができる情報を関連付けながら考察することができる学習活動を取り入れることが大切です。

〈小学校理科〉

■調査問題結果からみる傾向（○強み ●弱み）

多くの問題（16 問中 14 問）で無解答率が 0%になっています。最後まであきらめずに取り組む姿勢が見られます。

○問題①（2）：平均正答率 80.4%（三重県 74.4%、全国 76.2%）

調べた結果について考察する際に、問題に対応した視点で分析することについては、相当数の児童ができています。

○問題②（1）：平均正答率 89.1%（三重県 81.2%、全国 83.6%）

堆積作用についての科学的な言葉や概念を理解することについては、相当数の児童ができています。

○問題④（2）：平均正答率 95.7%（三重県 87.9%、全国 89.4%）

より妥当な考えをつくりだすために、複数の異なる方法の実験結果を分析して考察することについては、相当数の児童ができています。

●問題②（3）：平均正答率 26.1%（三重県 19.6%、全国 20.1%）

問題④（4）：平均正答率 41.3%（三重県 32.9%、全国 35.9%）

無解答率 15.2%（三重県 10.1%、全国 8.9%）

より妥当な考えをつくりだすために、実験結果を基に分析して考察したり、実験結果から言えることだけに言及した内容に改善したりしながら、その内容を記述することに課題があります。問題②（3）の解答類型から判断すると、「一度に流す水の量を増やした」という原因についての的確に捉えられていないこと、また、これまでの学習を通して獲得した知識を基に解答しており、実験結果を基に分析し、考察したことを説明することができていないことがうかがえます。

また、問題④（4）については、無解答率が高いことにも着目していく必要があります。

ただし、弱みとしましたが、平均正答率は問題②（3）については県平均より 6.5%、全国平均より 6.0%、問題④（4）については、県平均より 8.4%、全国平均より 5.4%上回っています。

●問題3 (4) : 平均正答率 43.5% (三重県 45.1%、全国 41.9%)

太陽の1日の位置の変化と光電池に生じる電流の変化の関係を目的に合ったものづくりに適用することに課題があります。解答類型1の反応率は21.7%、解答類型2の反応率は19.6%で、目的の時間だけ扇風機を作動させるために適切な位置に光電池を設置できていないことが考えられます。このように解答した児童は、午後1時頃から午後3時頃の太陽の位置は南よりも南西側である1日の太陽の動きについて十分に理解できていないことが考えられます。

●問題4 (3) : 平均正答率 34.8% (三重県 38.4%、全国 42.7%)

物を水に溶かしても全体の重さは変わらないことを理解し、食塩を溶かして体積が増えた食塩水に適用することに課題があります。解答類型2の反応率は32.6%で、これは、食塩を溶かした後の体積の水の重さである408gを示す選択肢を選んでいます。このように解答した児童は、食塩水の増えた体積分だけ全体の重さも増えると捉えており、物を水に溶かしても全体の重さは変わらないことへの理解が十分でないことが考えられます。

■全体の傾向から見られる課題への対応

① 実験結果を基に分析して考察し、その内容を記述できるようにする活動の重視

○実験結果を基に分析して考察し、その内容を記述できるようにするためには、観察や実験の結果を基に「事実」と「解釈」の両方を示しながら、説明できるようにすることが大切です。指導に当たっては、自分の予想にとらわれずに事実と解釈の両方を表現することで、よりの確な説明になることを捉えられるように指導することが大切です。その活動例として、実験結果である倒れた棒の本数を表などに整理して、考えの根拠となる事実を明確にした上で、事実とその解釈の両方を整理して説明する学習活動が考えられます。

② 実験結果を基に分析し、問題に正対したまとめができるようにする活動の重視

○実験結果を基に分析し、問題に正対したまとめができるようにするためには、問題を確認し、実験などで得られた結果を根拠とした考察を行い、実験結果から言えることだけに言及した内容であるかどうかを検討することが必要です。指導にあたっては、実験によって得られた結果を事実としての的確に捉え、事実から解釈したことを「実験の結果からいえること」として言及させることが大切です。また、より妥当な考えに改善していくためには問題解決の様々な場面で、自分の考えを表現したり、他者の考えを聞き、それを基に自分の考えを振り返ったり、見直したりするなどの話し合いを重視した学習活動が有効です。

③ 学んだことを自然の事物・現象に適用できるようにする活動の重視

○学んだことを自然の事物・現象に適用できるようにするためには、既習の内容や生活経験と関連付けて話し合う場を設定し、提示された自然の事物・現象を捉えることができるようにすることが大切です。設問4（3）で考えると、食塩水について、事実は「400mLの水に食塩が12g溶けている」ということであり、分からないことは「食塩水全体の重さ」であることを話し合い、明らかにする活動が考えられます。その際、「物を水に溶かしても重さは変わらない」、「水は1mLが1g」という既習の内容と食塩水を関係付けて、根拠をもって自分なりの考えを述べさせることが大切です。

④ 学んだことを基にしたものづくりへの適用ができるようにする活動の重視

○学んだことを基にしたものづくりへの適用ができるようにするためには、ものづくりの目的や獲得した知識を、ものづくりにどのように活用するかを明らかにするとともに、できたものが目的に合ったものになっているかを振り返り、設定した目的に対して、計測し、制御する学習活動を保障することが大切です。指導に当たっては、設定したものづくりの目的に対し、必要な知識を明らかにすることが大切です。設問3（4）では、「午後1時頃から午後3時頃のメダカの水槽の水温を下げるようにしたい」という目的を達成するには、これまでに獲得した知識として、「時間経過による太陽の位置や動き」と、「光が当たったときに発電する光電池の性質」を児童が想起し、ものづくりへ適用できるようにすることが大切です。さらに、実際につくりながら、光電池を入れる箱の切れ込みの幅、設置する光電池の角度など、試す中で調整が必要であり、「ある時間だけ光電池を発電させる」という目的を設定し、実際の発電状況を計測して、繰り返し試しながら光電池の置き方を制御するといった学習活動が考えられます。

〈中学校国語〉

■調査問題結果からみる傾向（○強み ●弱み）

○問題A³一：平均正答率 91.1%（三重県 87.8%、全国 88.2%）

○問題A³二：平均正答率 85.7%（三重県 81.6%、全国 82.8%）

文脈の中における語句の意味を理解すること、また、場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解することについては、相当数の生徒ができています。

○問題A⁸六1：平均正答率 98.2%（三重県 92.0%、全国 91.1%）

古典の文章と現代語訳とを対応させて内容を捉えることについては、相当数の生徒ができています。

○問題B[2]二：平均正答率 91.1%（三重県 87.4%、全国 88.3%）

話の展開に注意して聞き、必要に応じて質問することについては、相当数の生徒ができています。

●問題A[8]三エ：平均正答率 23.2%（三重県 28.7%、全国 29.2%）

語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うことに課題があります。本設問は、「せきを切る」の意味や用法を正しく捉え、文脈に即して適切に使うことができるかどうかをみる問題です。解答類型3の反応率は23.2%、解答類型4の反応率は35.7%となっています。このように解答した生徒は、「せきを切る」という言葉になじみがなく、意味が理解できていないと考えられます。また、「くうを切る」の意味や用法を正しく捉え、文脈に即して適切に使ったり、「紙を切る」という表現の意味を踏まえて適切に使ったりすることに課題があると考えられます。

●問題A[8]四2：平均正答率 17.9%（三重県 20.1%、全国 22.3%）

目的に応じて文の成分の順序や照応、構成を考えて適切な文を書くことに課題があります。解答類型5の反応率は67.9%で、このように解答した生徒は、「心を打たれる」という言葉の意味が理解できており、「誰（何）」の「どのようなこと」に「心を打たれた」のかが分かるように書くことはできていますが、主語と述語の照応の理解については課題があると考えられます。

●問題B[1]三：平均正答率 10.7%（三重県 12.0%、全国 13.3%）

目的に応じて文章を読み、内容を整理して書くことに課題があります。解答類型2・3のそれぞれの反応率は21.4%、26.8%となっており、このように解答した生徒は、目的に応じて、文章の内容の一部を捉えることはできているが、文章の構成や展開を踏まえ、必要かつ十分な内容を捉えることができていません。また解答類型99の反応率は35.7%となっており、このように解答した生徒は、文章中の表現を用いて書いているが、目的に応じて文章を読み、必要な内容を捉えることができていないと考えられます。

●問題B[3]三：平均正答率 41.1%（三重県 48.2%、全国 49.2%）

無解答率 17.9%（三重県 12.6%、全国 12.4%）

相手に的確に伝わるように、あらすじを捉えて書くことに課題があります。また、無解答率が高いことにも着目する必要があります。

■全体の傾向から見られる課題への対応

① 場面に即した語句を活用する指導の工夫

○語感を磨き語彙を豊かにするためには、語句の意味を辞書や資料集などを用いて確認するだけでなく、話や文章の中で実際に使用するよう指導することが大切です。その際、取り上げようとする語句について他に適切な表現がないかを考えたり、複数の語句を比べてどれが最もふさわしい表現かを検討したりすることも効果的です。同音異義語については、読み方だけでなく、漢字一字一字の意味を確認しながら熟語の意味について考えることが大切です。

② 文の成分の順序や照応に注意して書く学習活動の充実

○文を書く際には、文の成分の順序や主語と述語の照応などを整え、伝えたいことが相手に適切に伝わるように書くことができているかを常に吟味するように指導することが大切です。例えば、心の動きや、身の回りの様々な物事などについて具体的な内容を盛り込んだ文を書き、伝えたいことを適切に表現するための語順や語の照応について検討するなどの学習活動が考えられます。また、「書くこと」の学習との関連を図り、推敲の際の観点の一つとして取り入れることも効果的です。

③ 目的に応じて文章の内容を読み取らせる指導の充実

○目的に応じて文章の内容を的確に読み取るためには、文章の中心的部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分け、文章の構成や展開を捉えて内容を理解するように指導することが大切です。その際、段落ごとに内容を捉えたり、段落相互の関係を正しく押さえたりしながら、更に大きなまとまりごとに、文章全体における役割を捉えるように指導することが重要です。

④ 話の展開を整理して、あらすじをまとめる学習活動の充実

○作品のあらすじをまとめる際には、それぞれの場面の内容や場面相互の関係を捉え、話の展開を踏まえるように指導することが大切です。その際、小学校での学習を踏まえ、時間や場所、問題状況などの設定、情景や場面の様子の変化、主人公などの登場人物、登場人物の性格や行動、会話及び心情の変化、事件の展開と解決などの基本的な構成要素を捉えて整理するように指導することが重要です。例えば、自分の選んだ作品のあらすじをまとめ、互いに伝え合い、内容を適切に表現することができているかどうかを確認し合うなどの学習活動が考えられます。

〈中学校数学〉

■調査問題結果からみる傾向（○強み ●弱み）

○問題A 1 (1) : 平均正答率 100% (三重県 94.8%、全国 94.6%)

数直線上に示された負の整数を読み取ることについては、全ての生徒ができています。

○問題A 3 (2) : 平均正答率 92.9% (三重県 88.3%、全国 87.8%)

簡単な比例式を解くことについては、相当数の生徒ができています。

○問題A 3 (4) : 平均正答率 87.5% (三重県 75.6%、全国 75.2%)

着目する必要がある数量を見だし、その数量に着目して、連立二元一次方程式をつくって問題を解決することについては、相当数の生徒ができています。

●問題A 15 (1) : 平均正答率 30.4% (三重県 37.2%、全国 40.2%)

多数回の試行の結果から得られる確率の意味を理解することに、課題があります。

本設問は、ある試行を多数回繰り返したとき、全体の試行回数に対するある事象の起こる回数の割合は、ある一定の値に近づくことを理解しているかどうかをみるものです。誤答については、解答類型4の反応率が26.8%で、偶然に左右される不確定な事象の起こりやすさの程度を表す数値は一定の値に近づかないと捉えている生徒がいると考えられます。また、解答類型3の反応率は21.4%で、相対度数の値が一定の値に近づくことを理解しておらず、その値が0.5で一定であると捉えている生徒がいると考えられます。

●問題B 1 (1) : 平均正答率 44.6% (三重県 54.9%、全国 55.7%)

無解答率 10.7% (三重県 10.3%、全国 11.1%)

与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理することに課題が見られます。本設問は、全校生徒300人に対する上位4曲のいずれかを回答した生徒数の割合を求めるものですが、誤答については、解答類型99の反応率が35.7%であり、ABCDEの上位5曲に着目して解答した生徒やABCの上位3曲に着目した生徒がいると考えられます。また、解答類型4の反応率が7.1%であり、上位4曲のいずれかを解答した生徒数の合計を求めた生徒がいると考えられます。

また、無解答率が高いことにも着目していく必要があります。

●問題B 4 (1) : 平均正答率 42.9% (三重県 53.9%、全国 55.4%)

●問題B4(2)：平均正答率 33.9% (三重県 42.9%、全国 42.4%)

証明を振り返り、証明した事柄を基にして、新たな性質を見いだすことや、条件を変えた場合について、証明の一部を書き直すことに課題が見られます。

B4(1)は、平行四辺形の内部にできる四角形が平行四辺形になることを証明する場面を取りあげ、証明した事柄を基に、問題の図形において新たにわかることを指摘するものです。誤答である解答類型2の反応率は17.9%であり、見た印象だけでEDとEFの長さが等しいと判断し、新たにわかる性質であると捉えた生徒がいると考えられます。また、解答類型4の反応率は16.1%であり、この問題の仮定を新たにわかる性質であると捉えた生徒がいると考えられます。

B4(2)は、条件を「平行四辺形ABCD」から「正方形ABCD」に変え、発展的に考え、新たに見いだした事柄を数学的に表現するものですが、誤答である解答類型7の反応率は33.9%で、条件を変えた場合について、証明の一部を書き直すことができなかったと考えられます。

■全体の傾向から見られる課題への対応

① 確率の意味について、実験を通して実感を伴って理解できるようにする学習活動の重視

○実験を通して、ある試行を多数回繰り返したときに、ある事象が起こる回数の全体に対する割合が近づいていく値として、確率の意味を実感を伴って理解できるように指導することが大切です。そのために、観察や実験などの活動を取り入れ、その結果を表やグラフにまとめる場面を設定し、そこからわかったことを数学的な表現を用いて説明する活動を取り入れることが考えられます。

② 与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理する学習活動の重視

○実生活の場面で、事象を目的に応じて数値化して判断する場面を設定し、与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理することができるよう指導することが大切です。問題B1(1)を使って授業を行う際には、表から必要な情報を読み取り、基準量と比較量の関係を的確に捉え、それに基づいて数直線などを用いて演算を決定する活動を取り入れることが考えられます。また、求めた割合を用いて、アンケートの集計結果全体の傾向を読み取る場面を設定することも大切です。

③ 証明を振り返り、新たな性質を見いだすことや、問題の条件を変えて、発展的に考える指導の重視

○証明を書くこととともに、証明を読む場面を設定し、証明の結果や過程を振り返り、新たな性質を見いだすことができるよう指導することが大切です。問題B

4 (1) を使って授業を行う際には、証明をした後に、証明を振り返る場面を設定し、「用いた関係」と「結論」を書き出して整理し、新たな性質を見いだす活動を取り入れることが考えられます。

○証明を読み、結論を導くために欠かせない条件や性質を捉える場面を設定し、問題の条件を変えて発展的に考えることができるように指導することが大切です。
問題B 4 (2) を使って授業を行う際には、問題に示されている条件の一部を変えた場合（平行四辺形ABCDの対角線ACの延長上に点E、Fをとる）の図形の性質を考察する際に、もとの問題（平行四辺形ABCDの対角線AC上に点E、Fをとる）の証明を振り返りながら、方針を立てるといった見通しをもって証明する場面を設定することが考えられます。その中で、条件の一部を変える前と変えた後の2つの証明を見比べ、証明を用いた条件の違いに着目し、2つの図形の違いを考察していくことは、意図的に条件を変えることといった発展的に考えていくための機会になると考えられます。

〈中学校理科〉

■調査問題結果からみる傾向（○強み ●弱み）

○問題2 (1)：平均正答率 87.5%（三重県 87.1%、全国 86.2%）

無脊椎動物と軟体動物の体のつくりの特徴に関する知識を活用することについては、相当数の生徒ができています。

○問題7 (2)：平均正答率 83.9%（三重県 78.7%、全国 78.5%）

初期微動継続時間の長さや震源からの距離の知識を活用して、緊急地震速報の仕組みを踏まえて複数の地震の記録を分析して解釈し、緊急地震速報を受け取ってから、S波による揺れが始まるまでの時間が最も長いと考えられる観測地点を指摘することについては、相当数の生徒ができています。

○問題9 (1)：平均正答率 89.3%（三重県 88.4%、全国 88.0%）

植物が根から吸収した水を気孔から水蒸気として出す蒸散の働きに関する知識を身に付けていることについては、相当数の生徒ができています。

●問題3 (1)：平均正答率 42.9%（三重県 37.6%、全国 37.5%）

台風の進路の予想図における台風の位置と、現在の台風の周りの風向を示した図とを適切に関連付けて、観測地点における風向を予測することに課題があります。解答類型3の反応率が41.1%であることから、台風の進路の予想図における台風の位置と、現在の台風の周りの風向を示した図を関連付けてはいますが、観測地点

における南北方向の視点の移動ができていないと考えられます。

ただし、弱みとしましたが、平均正答率は、県平均より 5.3%、全国平均より 5.4% 上回っています。

●問題4 (2) : 平均正答率 26.8% (三重県 44.1%、全国 44.1%)
無解答率 17.9% (三重県 15.4%、全国 15.5%)

条件制御の知識・技能を活用して、ガスバーナーの空気の量を変えて炎の色と金網に付くススの量を調べる実験を計画する際に、「変えない条件」を指摘することに課題があります。解答類型7の反応率が 28.6%と正答率よりも高くなっています。例えば、「炎の大きさ」「炎の形」「炎の色」などのように、空気調節ねじで空気の量を変化させたとき、「変化すること（従属変数）」を挙げていることから「変えない条件」を指摘することができていないと考えられます。

また、解答類型8の反応率は5.4%あります。「空気の量」や「ガスの量」など「変える条件（独立変数）」「変えない条件」として示されている条件を挙げていることから、条件制御の知識・技能を活用することができていないと考えられます。

●問題9 (2) : 平均正答率 12.5% (三重県 18.0%、全国 19.4%)
無解答率 23.2% (三重県 20.8%、全国 21.4%)

植物を入れた容器の中の湿度が高くなる原因について、蒸発と湿度に関する知識を活用して、蒸散以外に湿度を変化させたと考えられる要因を見いだすことに課題があります。解答類型7の反応率が 14.3%で、容器の中の湿度について記述していますが、水蒸気が発生する場所（土、鉢・皿）とその仕組みを記述していないことから、湿度が高くなる原因として考えられる要因を見いだすことができていないと考えられます。

本設問だけではありませんが、記述問題の無解答率が高いことにも注目する必要があります。

■全体の傾向から見られる課題への対応

① 天気図と日常生活の場面とを関連付けて気象現象を捉えることができるようにする活動の重視

○天気図や気象衛星画像などの気象情報を基に天気の変化を考える上で、観測者の視点から気象現象を捉えることは大切です。指導に当たっては、例えば、広域の気象情報と観測者が捉える気象現象とを関連付け、空間と方位、時間の観点から気象現象を考えたり説明したりする学習場面を設定することが考えられます。その際、上空から地上への視点の移動を促すために、天気図上に人形を置くなど、観測地点の気象現象を空間的に捉えられるように指導することが大切です。

② 実験の目的に応じた条件を指摘し、条件制御の知識・技能を活用する活動の重視

○実験を計画して科学的に探究する上で、「変化すること（従属変数）」とその「原因として考えられる要因」及び「変える条件（独立変数）」と「変えない条件」を指摘できるようにすることは大切です。指導に当たっては、例えば、はじめに「変化すること（従属変数）」と「原因として考えられる要因」を全て挙げ、それらの妥当性を検討します。次にそれらの要因を「変える条件（独立変数）」と「変えない条件」に整理して、実験を計画する学習場面を設定することが考えられます。なお、「変える条件（独立変数）」と「変えない条件」を指摘する際、はじめに自分の考えを持たせることが大切です。次に自分の考えを他者と共有し、生徒自身が検討して改善できるように教師が助言や問い返しをするなどして、指導することも大切です。

③ 問題解決の知識・技能を活用して、自然の事物・現象の原因を指摘できるようにする活動の重視

○自然の事物・現象を科学的に探究する上で、「原因として考えられる要因」を全て指摘し、問題解決の知識・技能を活用して、条件を制御した実験を計画することは大切です。指導に当たっては、例えば、鉢植えの植物を入れて密閉した透明な容器内の湿度が高くなる「原因として考えられる要因」を全て挙げ、実験の計画を検討して改善する活動などが考えられます。その際、他の分野や領域で身に付けた知識・技能も活用して、自然の事物・現象や日常生活で目にする事象を多面的な視点に立って考えることが大切です。

2 質問紙（児童生徒・学校）に関する調査の分析結果

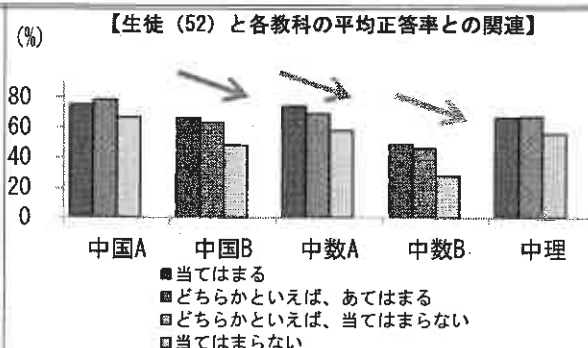
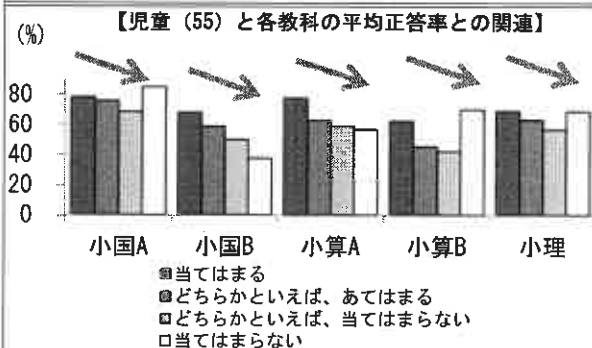
（1）学力とのクロス分析

＜主体的・対話的で深い学びに関するもの＞【小学校】【中学校】

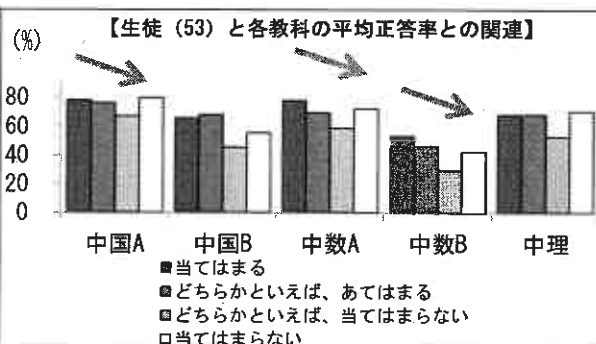
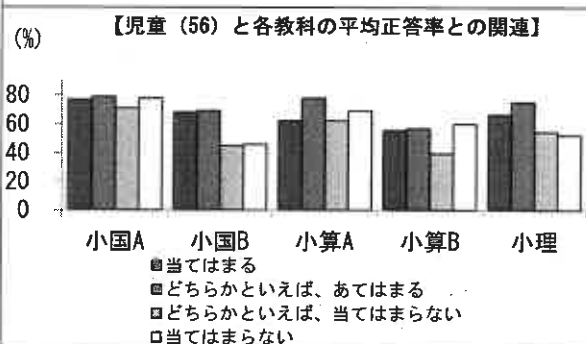
○以下と回答している児童生徒の方が、教科の平均正答率が高い傾向がみられる。

- ・5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う。（児童55、生徒52）
- ・5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思う。（児童56、生徒53）
- ・学級の友達と〔生徒〕の間に話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う。（児童57、生徒54）

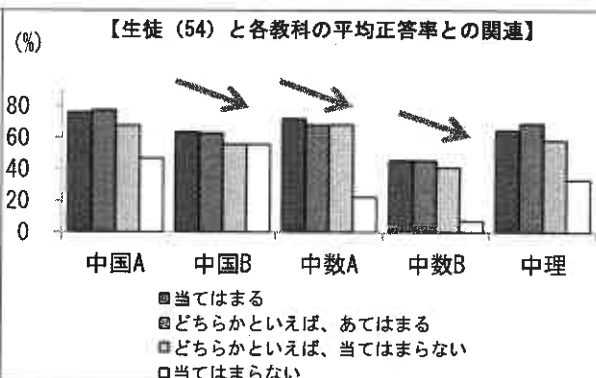
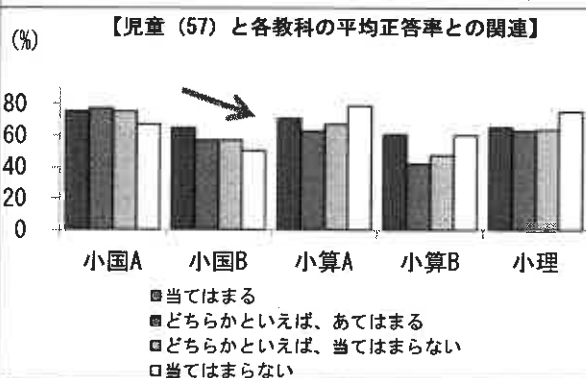
〔児童生徒〕5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか。



〔児童生徒〕5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思いますか。



〔児童生徒〕学級の友達と〔生徒〕の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。



(2) 経年変化

①学校の組織的な取組の観点から

○補充的な学習の取組状況及び個に応じた指導について

※肯定的な回答をした割合(%)

※(／)は該当質問なし (-)はデータ未確認

	H30 の質問 番号	質問事項	H26	H27	H28	H29	H30
小学校	37	調査対象学年の児童に対する算数の指導として、前年度までに、補充的な学習の指導を行いましたか	50	100	100	100	100
	38	調査対象学年の児童に対する算数の指導として、前年度までに、発展的な学習の指導を行いましたか	-	50	75	50	50
児童	27	算数の勉強は好きですか	47.5	62.9	74.1	74.4	63.1
	29	算数の授業の内容はよく分かりますか	73.7	87.1	89.7	82.9	91.3
	31	算数の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか	-	83.9	89.7	72.4	74.0
	35	算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか	-	88.7	84.5	85.1	82.6
	37	今回の算数の問題について、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題がありましたが、どのように解答しましたか ※「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」と回答した割合	-	85.5	79.3	59.6	65.2
中学校	34	調査対象学年の生徒に対して、数学の授業において、前年度に、習熟の遅いグループに対して少人数による指導を行い、習得できるようにしましたか	0	50	0	100	100
	35	調査対象学年の生徒に対して、数学の授業において、前年度に、習熟の早いグループに対して少人数による指導を行い、発展的な内容を扱いましたか	0	50	0	100	100
	36	調査対象学年の生徒に対する数学の指導として、前年度までに、補充的な学習の指導を行いましたか	100	100	100	100	100
生徒	27	数学の勉強は好きですか	48.2	54.2	50.7	50	51.8
	29	数学の授業の内容はよく分かりますか	60.7	72.2	61.3	63.3	87.5
	31	数学の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか	57.1	73.6	65.3	71.6	80.4
	35	数学の授業で公式やきまりを習うとき、その根拠を理解するようにしていますか	67.8	76.4	65.4	71.6	85.7
	37	今回の数学の問題について、解答を言葉や数、式を使って説明する問題がありましたが、それらの問題で最後まで解答を書こうと努力しましたか	50	56.9	49.3	73.3	58.9

全ての小中学校において補充的な学習の指導、さらに全ての中学校においては少人数指導を行っており、児童生徒の学習意欲や理解度に上昇傾向がうかがえます。引き続き、補充学習や少人数指導等、個に応じた指導体制の工夫を進めていくことが大切です。

○小中連携の取組状況について

※肯定的な回答をした割合（％）

※（／）は該当質問なし

	H30 の質問 番号	質問事項	H27	H28	H29	H30
小学校	34	平成29年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の中学校と成果や課題を共有しましたか	／	25	→ 25	→ 25
	77	前年度までに、近隣等の中学校と、授業研究を行うなど、合同して研修を行いましたか		75	↘ 25	↗ 100
中学校	33	平成29年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の小学校と成果や課題を共有しましたか	／	50	↘ 0	→ 0
	74	前年度までに、近隣等の小学校と、授業研究を行うなど、合同して研修を行いましたか		50	→ 50	→ 50

学校質問紙（小72、74、中69、71）によると、それぞれの学校において校内研修が位置付けられ、取組が進められていることがうかがえます。そこで今後は、小中合同で研修の機会を大切にしつつ、全国学力・学習状況調査の分析結果について成果や課題を共有しながら、学校種間や教科間の連携を図り、中学校区全体として9年間を見通した授業改善に向けた取組につなげる必要があります。

②家庭における学習習慣の観点から

○家庭学習の取組状況について

※肯定的な回答をした割合（％）

※網かけ部は、割合が低いほど肯定的回答

	H30 の質問 番号	質問事項	H26	H27	H28	H29	H30
小学校	64	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図りましたか（国語／算数共通）	50	75	100	100	100
	65	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、調べたり文章を書いたりしてくる宿題を与えましたか（国語／算数共通）	50	75	100	50	100
	66	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、児童に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えるようにしましたか（国語／算数共通）	50	75	100	100	100
児童	10	家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか	44.2	54.8	67.3	63.8	67.4
	14	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む） ※「30分より少ない」「全くしない」と回答した割合	18	4.8	5.1	4.3	6.5
中学校	61	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図りましたか（国語／数学共通）	100	100	100	50	100
	62	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、調べたり文章を書いたりしてくる宿題を与えましたか（国語／数学共通）	50	100	100	50	100
	63	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、生徒に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えるようにしましたか（国語／数学共通）	100	100	100	100	100
生徒	10	家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか	30.4	43.1	53.4	55	64.3
	14	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む） ※「30分より少ない」「全くしない」と回答した割合	14.3	43	21.3	23.3	14.3

全ての小中学校において、家庭学習について校内で共通理解を図り、具体的な指導を行っている学校の割合が維持されています。これに伴い、「自分で計画を立てて勉強をしていますか」と回答している児童生徒の割合が増加傾向にあります。また中学校においては、学校外での平日の勉強時間が「30分より少ない」「全くしない」と回答した生徒の割合に改善が見られます。今後も引き続き、家庭学習習慣を身に付けさせる取組を進め、学習内容の定着を図ることが大切です。

3 本町における小中学校別調査の分析結果と今後の取組み

<小学校>

【授業改善】

- 授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができている。また、自分の考えを発表する場面では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表できている。今後は、自分の考えを深めたり、広げたりすることができるよう指導を充実させます。

児童 (55) (56) (57)

学校 (13) (80) (81)

教科 (国語B) 1 ー 1 二 1 三

教科 (理科) 2 (3) 4 (4)

【学校の組織的な取組】

- 「算数の授業の内容がよく分かる」と回答している児童の割合が、全国に比べ高い傾向にあります。補充的な学習指導や、実生活における事象との関連を図った授業を行うことで理解力が高まり、基礎的・基本的な知識・技能の定着に改善がみられます。また、最後まで諦めずに問題に取り組む意欲が改善傾向にあります。今後は、活用力を育む発展的な学習指導を充実させます。

児童 (27) (29) (31) (35) (37)

学校 (37) (38) (39) (40)

【家庭学習】

- 各校で、家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図るとともに、児童に家庭での学習方法等の具体例を挙げながら教えるようにするなど、家庭学習の定着に向け取り組んでいます。算数では、家庭学習として調べたり文章を書いたりする宿題に取り組ませることにより、言葉や図などを適切に用いて考えを書くことに改善がみられます。さらに、学校の授業の予習や復習等、自分で計画を立てて勉強ができるよう、家庭と連携しながら取組を進めます。

児童 (10) (11) (12) (14)

学校 (63) (64) (65) (66) (67) (68) (69) (71)

教科 (算数B) 1 (2) 3 (1) 4 (2) 5 (1)

<中学校>

【授業改善】

- 生徒間で自分の考えを話し合う活動の機会があると生徒が感じており、大きな改善がみられ、教科の平均正答率に高い傾向がみられます。しかしながら、記述式の設問に関しては、その成果があまり見られず、無解答率も高い傾向にあります。生徒間で話し合う活動を通じ、自分の考えを深めたり、広げたりする機会を意図的・計画的に取り入れるとともに、「書くこと」の学習との関連を図るようにします。また、学習したことが、普段の生活の中で活用できたり、将来、社会に出たときに役に立つことが実感できたりするよう指導を工夫します。

生徒 (5 2) (5 3) (5 4)

学校 (1 3) (7 7) (7 8)

教科(国語B) 1 三 3 三 教科(数学B) 1 (3) 2 (2) 3 (3) 5 (2)

教科(理科) 4 (2) 9 (2)

【学校の組織的な取組】

- 少人数指導が、継続してすべての学校で行われており、生徒の学習意欲や理解度上昇傾向がみられます。引き続き、補充学習や少人数指導等、個に応じた指導体制の工夫を進めていくことが大切です。特に数学Aの平均正答率は、全国や県の平均を上回っています。しかしながら、数学Bの平均正答率は、全国や県を下回っていると同時に、記述問題の無解答率の高さが気になります。補充学習を継続しながら、発展的な内容を扱う学習の中で解答を言葉や式を使って説明する力を付けたり、最後まで解こうとする態度を育んだりすることが大切です。

生徒 (2 7) (2 9) (3 1) (3 5) (3 7)

学校 (3 4) (3 5) (3 6)

教科(数学B) 1 (3) 2 (2) 3 (3) 4 (3) 5 (2)

【家庭学習】

- 家庭学習について校内で共通理解を図り、具体的な指導を行っている学校の割合に改善が見られます。このことに伴い、「自分で計画を立てて勉強をしている」と回答している生徒の割合が増加傾向にあります。また、「平日に30分以上勉強をしている」と回答する生徒の割合についても、改善が見られます。しかしながら、その内容は「学校の宿題」と回答した生徒の割合が高く、「授業の予習・復習」と回答した生徒の割合は全国や県の平均を下回っています。さらに、学校の授業の予習・復習等、生徒が自分で計画を立てながら取り組むことができるよう、家庭と連携しながら取組を進めます。

生徒 (1 0) (1 1) (1 2) (1 4)

学校 (6 1) (6 2) (6 3)

4 町教育委員会及び学校による取組み

「町の宝である子どもたち」の学力向上のために、学校、家庭、地域の連携をより一層を深めるとともに、今回の全国学力・学習状況調査結果を分析、検証し、特に明らかとなった「弱み」を克服するために、指導方法の工夫・改善に取り組んでいきます。

【具体的事項】

- ① 大紀町学力向上推進協議会において、小中学校連携のもと、各学校の取組みについて情報交換を行い、子どもたちの学力を伸ばすためのPDCAサイクルの徹底化をはかりながら授業改善を進めます。
- ② 南勢教育支援事務所や度会郡指導主事室の指導主事の学校訪問等による授業改善に向けた授業力向上を目指します。
- ③ 学力向上に向けて、学校経営、学習指導等への支援にあたっていきます。
- ④ 町独自による学校特別支援員、学校図書館運営補助員の効果的配置と活用の継続・充実を図り、きめ細やかな指導体制を構築します。
- ⑤ 児童生徒の主体的な学習意欲を高めるために、地域学習や体験活動など各種取組みを支援します。
- ⑥ 学校・家庭における読書の習慣化に向けた取り組みを進めます。
- ⑦ 児童生徒が安心して学べる学習環境の整備に努めます。
- ⑧ 放課後及び長期休業中を活用して、補充授業などを行い、子どもたち一人ひとりの基礎的な学力の一層の定着を図ります。
- ⑨ みえスタディ・チェックやワークシートの活用を積極的に行い、学力の向上に努めます。
- ⑩ 授業の目標（めあて・ねらい）、振り返り活動を取り入れ、「わかる」授業へと改善を図ります。
- ⑪ 保護者と連携し、家庭学習の重要性や基本的な生活習慣の更なる改善を図っていきます。

5 保護者の皆様へのお願い

- ・家庭学習の重要性について、各学校においてお知らせしております。学校で学んだこと、学ぶことを復習する予習するという習慣は、学力の定着に大きくつながります。是非、ご家庭においては、子どものノートや宿題に目を通し、見守り、励ますなどの声かけをよろしくお願いいたします。
- ・規則正しい生活リズムが、学力の向上に大きく影響しております。テレビやゲーム、携帯電話及びスマートフォンを使用する時間などについて、家庭でのルールづくりを更に徹底していただくようお願いいたします。
- ・学校では、朝の読書を実施しています。読書は全ての学力の土台となるものです。是非とも、ご家庭でも読書に親しむ環境づくりをお願いいたします。

6 地域の皆様へのお願い

- ・学校において子どもたちは、生活や総合的な学習の時間に地域学習を実施しております。地域の人たちとのふれあいにより、色々なことを学んだり、身につけたりします。学校から地域の皆様方に要請がございましたら、ご協力をよろしくお願いいたします。